

学会賞・学術賞 受賞者講演会

■ 日本第四紀学会では、第四紀学の発展に貢献し顕著な業績をあげ、また学会活動に貢献した会員に授与される「学会賞」、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与される「学術賞」を設けており、2009年大会において今年度の受賞者を決定しました。

■ 受賞者による第2回受賞記念講演会を下記のとおり開催します。非会員の方のご来場も歓迎します。

■ また、同日、同じ会場にて日本第四紀学会主催のシンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか? : 学会と教育現場との連携に向けて」が開催されます。あわせてご参加ください。

お問合せ：日本第四紀学会事務局 (Tel: 03-5291-6231 ; daiyonki@shunkosha.com)

2010年6月19日 [土] 10:00-11:25 参加費無料 事前登録不要

早稲田大学 22号館

山手線高田馬場駅より学バス早大正門ゆき-西早稲田バス停 下車徒歩5分
東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩15分

- ・ 10:00~10:05 開会あいさつ
- ・ 10:05~10:45 小疇 尚氏 (学術賞受賞者)
- ・ 10:45~11:25 小野 昭氏 (学会賞受賞者)



山岳地域・極地における氷河・周氷河地形に関する研究

小疇 尚氏 (明治大学名誉教授)

明治大学名誉教授。文学修士。学生時代に赤石山脈の鳳凰山で構造土の成因に関する野外実験を行い、地面の凍結融解による礫の移動を観察する。その後、白馬岳、赤石岳の高山帯で砂礫移動のメカニズムと移動量の観測を進めて、「寒冷地形談話会」とその中の「高山地形研究グループ」の調査・研究につなげた。また、化石周氷河現象、氷河地形を調査し、その形成期と当時の自然環境について考察してきた。



旧石器時代の人類活動と自然環境

小野 昭氏 (日本第四紀学会副会長・明治大学特任教授)

明治大学研究・知財戦略機構特任教授。博士(文学)。明治大学文学部卒。岡山大学法文学専攻科修了。先史考古学。石器の地域差と石材の原産地推定を結びつけて日本列島の旧石器時代社会を動的に復元する研究を開始。並行して大形哺乳類の狩猟解体場の比較研究と、世界中でほとんど手つかずであった旧石器時代の打製石器の研究に取り組み、約20年かけてヨーロッパからアジア、北米に散在する資料を体系化。この過程で環境変動と人類活動の関係についての方法と認識を深める。国際先史学・原史学連合 (UISPP) 第8委員会日本代表委員、INQUA 委員会 Humans and the Biosphere (HaB) 委員。



会場案内

<同日開催 シンポジウム 13:00~18:00 >

学校教育で地学は生き残れるか —— 学会と教育現場との連携に向けて

持続的発展可能で安心・安全な社会の構築のためには、将来を担う児童・生徒の科学リテラシーの向上が必要不可欠である。平成24年度から高校理科が3科目必修となる一方で、現在の地学の履修率は低く、地学専門の教員も激減している。このような危機的な状況の中で、地学を教科として存続させ、履修率を上げるためには、学会が積極的に教育現場に働きかける必要がある。本シンポジウムでは、3つの教育系の学会と共同で学校の教科教育を中心とする地学教育、理科教育、科学教育の現状と課題を整理し、学校現場と学会の連携を図るための方向性を議論する。なお、本年8月の日本第四紀学会大会では、生涯教育としての自然史教育をテーマとしたシンポジウムを開催する予定である。